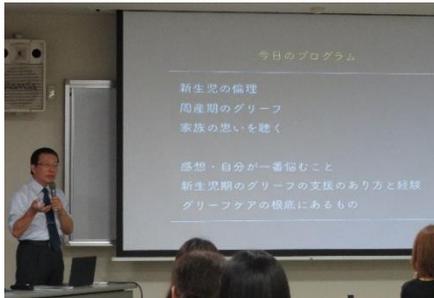




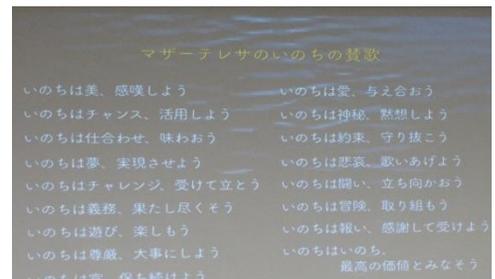
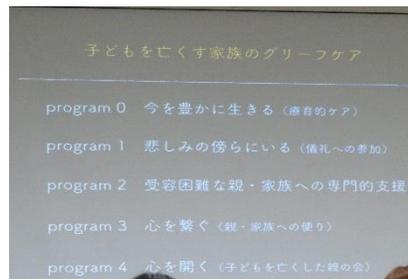
第2回 助産実践能力向上研修



令和元年9月15日(日)山口県看護研修会館において、第2回助産実践能力向上研修「グリーフケア」が開催されました。とよた歯科医院 歯科医師の武田康夫先生に「周産期のグリーフケアをみなさんと考える」というテーマで講義をしていただきました。助産師33名、看護師5名と多くの参加がありました。



新生児の倫理、周産期のグリーフ、家族の思いを聴くという内容について講義をいただきました。新生児の倫理とは、いのちに向き合う、人とは何か、グリーフとともにある選びに答える。いのちとは、目に見える「生理的生命の領域」、目に見えない「母児の応答の領域」がある。家族のグリーフとは、無力な存在、関係を失う、未来を失うこと。身近に寄り添う者として死や障害の体験という棘が心と身体に刺さったままの家族に対する支援は、いのちが複眼的であることから帰結するTO DO〈最善の医療〉とTO BE〈人格的關係〉の複眼的支援が求められる。TO DOとTO BEという当たり前のことができないと家族関係が壊れ、母親役割がわからなくなるため、複眼的支援の補完性が大切。TO DOはTO BEを支える、TO BEはTO DOを豊かにする、応答することがTO BEである、ということを学びました。



多くの事例があり、実際にどのように関わったらよいかヒントを得ることができました。また、実際に13トリソミーでお子様を亡くされた星の会の方がこられ、娠中からの経過や出産後の関わりなど貴重な体験談をお聞きすることができました。いのちについて考え、助産師、看護師として自分たちに何ができるのかを考えるよい機会となりました。



今後たくさんの研修を企画しています。皆様の参加をお待ちしています。